

熱海市立図書館所蔵 主要貴重地域資料 リスト

平成26年11月18日

	タイトル	大きさ 他	年代	特徴
1	豆州熱海湯治道知辺(元禄八年版)	1枚 紙本木版 27×25	明治期以降の複製	1695年刊行の小型の絵図の複製。年代の確かな絵図として資料的価値が高い。
2	熱海之絵図(宝暦八年)	1幅 紙本木版 75×92	江戸時代 1758年	江戸期の熱海絵図の中で最大のもの。他の絵図に比べて詳細。走湯山の塔頭や別当寺院などが忠実に記入されていることが他の絵図に際立っている。
3	豆州熱海地誌	1冊 紙本墨書 26×18	江戸時代 1699年	金沢出身の儒学者鈴木秋峰著。1699年に脚疾の治療のため熱海に逗留しその折に編纂された。熱海に関する地誌で最も古いといわれる。
4	名勝八景 熱海夕照 熱海ノ濱より大嶋之真景	1枚 大判錦絵 22×35	江戸時代 天保年間	二代目歌川豊国作。名勝八景のうち熱海夕照の図。坪内逍遙旧蔵。
5	熱海日録 草稿本	1冊 紙本墨書 27×20	江戸時代 1767年頃	尾張藩の儒学者人見黍著。持病を治すため熱海へ湯治した記録の草稿本。明和期の熱海の様子や入浴法を知る資料として貴重。徳富蘇峰旧蔵。
6	熱海紀行	1冊 紙本墨書 22×16	江戸時代 1854年写	江戸後期の儒学者・歌人の成島司直著。1802年今井半太夫方の二楽亭にて湯治した折の紀行文。
7	熱海道之記	1冊 紙本墨書 27×19	江戸時代 19世紀	京都出身の国学者山本正臣著。1807年二楽亭にて湯治した折の紀行文。挿絵があり二楽亭の様子を知ることができる。文化時代の熱海の街並みの様子が伺える。
8	熱海紀行	1冊 紙本墨書 23×16	江戸時代 1826年	徳島藩の儒官藤井彰民著。1815年徳島城主蜂須賀氏の正室の熱海湯治に随行した折の紀行文。江戸後期における大名家の湯治の一端を知ることができる。
9	豆州熱海湯治道知辺	1冊 紙本木版 22×16	江戸時代 1695年刊	1695年に熱海で板行された熱海温泉の案内書。江戸から熱海までの道中や湯治中に見聞したことを紀行文風書き綴ったもの。
10	熱海名主代々手控抜書	1冊 紙本墨書 24×17	明治40(1907)年	江戸時代熱海の名主であった今井半太夫家に伝来した文書中、熱海町に必要な事項を抜書し、明治40年に町長に提出されたもの。今井家文書が失われている今日では貴重な資料。本書の記述により、将軍家御汲湯が最も盛んだったのは八代将軍吉宗の時であったことが知れる。
11	熱海新聞 昭和12年～	製本	欠号あり	郷土の歴史を知るために最も優れた資料。熱海新聞社にも原紙がなく、熱海市立図書館所蔵のもののみ現存。昭和30年代から40年代にかけてのものが最も需要が高いが、状態は非常に悪い。